

坂口っ子の「国語」・「算数」・「理科」の力と学習の様子

～『令和7年全国学力・学習状況調査(2025.4.17 6年生が実施)』の結果から～

★今年度は、国語・算数・理科の調査が行われました。どの教科にも、学校での授業の工夫や家庭での学習支援の効果が表れています。(◎は良いところ、▲は伸ばしたいところ)

★国語について

①『学習指導要領の6つの内容における結果から』

◎「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の6つの内容のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」の2つの内容で力がついています。

②『特に正答率の高かった問題』

◎特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容において、漢字を文の中で正しく使うことができている。これは、日々の授業や家庭学習において習得を積み重ねている成果が表れています。

③『課題として』

▲「情報の取り扱いに関する事項」の内容に課題があります。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかという設問で誤答が見られました。

これからは 教科横断的に、情報整理や可視化の機会を増やしていきます。文章の中で因果関係、対比、列挙などのつながりを表すキーワードを確認したり、段落ごとに要点を短くまとめ、それらを線や矢印で結びながら文章全体の流れを整理したりして情報と情報を関連付ける力を育成していきます。また、表現形式の多様化に取り組んでいきます。自分の考えや思考の流れを表、グラフ、フローチャートなどを使って表現することで、自分の考えをより整理することにつながります。そのための課題や場面設定を学習の中で工夫していきます。

★算数について

①『学習指導要領の4領域における結果から』

◎4領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のうち、領域「図形」が他の領域に比べ良好で、特に「知識・技能」に分類される問題は正答率が高いと言えます。

②『特に正答率の高かった問題』

◎領域「図形」において、平行四辺形の性質を基に、作図をすることができます。また、台形の意味や性質、角の大きさについてよく理解できています。

③『課題として』

▲領域「変化と関係」において、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだすことに課題があります。

これからは 気温変化や買い物の支払いと単価など身近な日常生活の事象と結びつけたり、問題文から「時間」「個数」「長さ」などを抜き出し、表に整理する習慣をつけたりすることで、変化を捉える力を養います。また、表とグラフ、グラフと文章など、複数資料から関係を見つける経験を増やすことで、関係を読み取る力の育成に努めます。

★理科について

①『学習指導要領の4つの領域における結果から』

◎「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4つの領域のうち、「生命」「地球」の2つの領域が他の領域に比べ良好といえます。

②『特に正答率の高かった問題』

◎「生命」の領域において、ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身につけています。また、発芽するために必要な条件について実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができています。

③『課題として』

▲「エネルギー」の領域において、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの理解が不十分です。

これからは 実生活において五感を通して体験する事物・現象から、子どもが主体となって課題を見出し、目的意識をもって観察・実験を計画・実施し、対話的に考察することで基礎概念の理解を深めます。そして、獲得した知識・技能をもとにして新たな課題を見出したり、別の事物・現象を説明したりする力につなげていきます。

★学習や生活について

《家庭や地域に関すること》

◎「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」という問いに対し、全員が肯定的に回答しています。このことから、地域の方々との関わりの中で、ふるさとに対する愛情を育むことができている、社会に貢献したいという思いをもっていることがわかります。

《自分自身に関すること》

◎「毎日朝食を食べているか」「同じくらいの時刻に寝たり、起きたりしているか」という問いに対し、全員が肯定的に回答しています。このことから、基本的な生活習慣が身に付いているといえます。

◎「将来の夢や目標を持っていますか」という問いに対し、全員が肯定的に回答しています。このことから、本校の児童は、前向きな気持ちで生活を送っていることが伺えます。

◎「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」という問いに対して、全員が肯定的に回答しています。このことから、自己肯定感が高いことが伺えます。

▲「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」という問いに対する結果から、担任はもちろん、養護教諭、スクールカウンセラーなど児童が相談しやすいと思った先生にいつでも相談できるような体制を今後も整えていきます。また、心のアンケートや教育相談活動を定期的に行うとともに、「SOS の出し方に関する教育」をさらに推進して、困ったことや不安がある時に気軽に相談ができるように努めていきます。

《学校や学習に関すること》

◎「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という問いに対して、全員が肯定的に回答している。このことから、安心して意見を言える雰囲気があり、自分たちでよりよくしていこうという自治の精神が根付いているといえます。

◎「分からないことがあった時に、ICT 機器を活用してすぐ調べることができる」「ICT 機器を活用して楽しみながら学習を進めることができる」という問いに対して、全員が肯定的に回答しています。このことから、ICT 機器を日常的に課題解決の1つのツールとして活用し、学習に意欲的に取り組んでいるといえます。